

## 華嚴寺（鈴虫寺）

お堂で数千匹の鈴虫を透明容器のテラリウムで飼育するという独特の伝統から、華嚴寺は、別名「鈴虫寺」と呼ばれています。その飼育は、秋の夜に鈴虫の声を聞きながら悟りを開いた第8代住職の台嚴によって、20世紀半ばに始められました。人々の心を癒そうと、彼は鈴虫が一年中鳴くために必要となる正確な温度、湿度、栄養面の研究に28年を費やしました。

### 略史

華嚴寺は、日本の華嚴宗の再興を使命とした僧侶、鳳潭（1654年～1738年）によって1723年に設立されました。一時はその役目を果たしましたが、後継者不足により最終的には、臨済宗に改宗しました。本尊は華嚴宗の教えを特徴づける宇宙そのものを表す仏とされる、大日如来です。

### 鈴虫説法

寺院の客殿では、鈴虫の鳴き声とともに僧侶たちが30分間の鈴虫説法を行っています。説法の内容はさまざまですが、通常、寺院の歴史や禅の概念、そして仏教における例え話などを聴くことができます。説法は基本的に参加必須ですが、日本語が理解できない方は境内や庭園の見学だけでも可能です。山門の隣には幸福地蔵尊がおられますが、一般的に見られる地蔵のように裸足ではなく草鞋を履いています。祈りの際に自分の住所を伝えると、このお地蔵さんは参拝者の家に直接赴き願いを叶え、幸福をもたらすと言われています。

なお、鈴虫寺は近い将来に大規模な再建が予定されています。説法や鈴虫の鳴き声を聴くことができる、新しい客殿がお披露目されます。